

薬科大の職域接種、体験通じた学びの機会に 薬剤師によるワクチン接種も見据え

2021/9/8 04:50



接種直前に講義を受ける学生

新型コロナウイルスワクチンの職域接種が、薬科大でも広がっている。他大学と連携して実施するケースがある一方で、ほぼ薬科大単独での運営も。薬剤師教員がワクチン接種の流れを把握し、実際に経験することで、将来的な薬剤師による予防接種を見据えた教育にも生かす。

昭和薬科大（東京都町田市）は2～4日に職域接種を実施、多くの学生や教職員が1回目の接種を終えた。学校医1人と看護師数人のほかは、学内の薬剤師や医師の教員、事務職員らで運営。動線の確保や人員配置なども独自に計画を作り上げた。

同大は職域接種を薬学生の学びの機会としても位置付けた。接種する側の立場で関わる場合にも備えて、接種当日までに、新型コロナウイルスの特徴やワクチンの作用、予診票のチェック項目の意味などについて説明。当日も予診説明の一環として、予防接種健康被害救済制度や重いアレルギー反応の既往歴の有無など、接種前に確認すべきポイントを講義形式で伝えた。山本恵子学長は学内での接種について「早く対面で講義を受けられるような日常を取り戻してほしい。また体験を通じて学んでほしい」と話す。

●「注射」だけじゃない接種業務

学習室などをパーティションで仕切った接種室には、打ち手の看護師のほか薬剤師も配置。実際の接種に立ち会うことで、注射手技だけではない接種前後のノウハウもつかむ狙いだ。教員の1人は「注射だけじゃなく、迷走神経反射につながる緊張をほぐすようなコミュニケーションも大切だと分かった」と話す。薬剤師による接種が可能になったとしても、

「座学だけでなく、実際に現場経験が欠かせない」とみる。



学内に設営された接種室

今回の職域接種の責任者を務めた同大常務理事の渡部一宏教授は、将来的な薬剤師による予防接種を見据えて運営計画を策定した。医師による予診・問診や看護師による接種以外は、ワクチンの調製をはじめ、予診説明から接種後観察までを臨床系の薬剤師教員が担当。渡部氏は「予防接種業務において、薬剤師が関われる部分には積極的に関わる体制をつくった。学生だけでなく、教員も予防接種への関わり方を感じてほしい」と話す。

●薬系大接種、希望者数届かないケースも

職域接種を巡っては当初、最低1000人の希望者がいることが条件とされた。そのため希望者が集まらず断念せざるを得なかった薬科大もあった。中には、近隣の大学と連携

して実施するケースもあり、神戸薬科大（神戸市）は近隣の東灘区内の2大学と共同で実施。新潟薬科大（新潟市）は系列2校と合同で取り組んだ。

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう